

◆三田評論と昭和一〇〇年

## 平凡主義礼賛

皆さんが来年卒業して就職するに就て對馬君のお話を承れば、来年の卒業期からは従前の様に在学中に予約はしない、何処の銀行会社でも卒業後一斉に採用するのでありますから、来年は随分時期が悪い、大変不幸があると云うお話であります、私が大阪で主宰して居ります阪神急行電鉄会社の方から云えば非常に有難いので、私の会社なぞへは何時もおつちこつちの売れ残りがやってくるので有難迷惑であつたが今度は初めから一直線に阪神急行と志してやってくるのであるから洵に有難い。私共から見ると実に好機逸すべからず、人物を集めたいと考えて居るのであります。

偕て本日どう云うことをお話ししましょうかと考えましたが、是から職業を選択される皆様の立場に於て第一に考えて戴きたいのは東京が宜いか大阪が宜いかと云う問題であ

る。此事をお考になるに就て知らなければならぬことは、東京はどう云う所であるか、大阪はどう云う所であるかと云う一般概念を必要とするだろうと思ひます。茲には東京の人も大阪の人も双方随分多うございませうが、私が茲で東京大阪の比較論をしようと思ひます。茲には、学生諸君の知らない問題、世の中には色々表裏があるのでありますから、私は極くアウトラインだけ大阪は斯う云う所、東京は斯う云う所だと云うお話をし、どつちを択ぶ方が将来働く上に於て利益であるかと云うことを先ず第一にお話したいと思ひます。

東京は政治の都である。是は誰でも云う話であるが今日政治の都であると同時に、其政治の中毒を受けて、有ゆるものが非常に腐敗して居る。東京——例えば実業界の例を一事お話ししますと銀行と云うもの——実に立派に健全に経

小林 一三  
(本塾評議員)

営をしなければならぬと云うような銀行で第一は日本銀行、朝鮮銀行、勸業銀行、興業銀行、斯う云う風の政府に特殊関係のある銀行は皆御覧の通り——まあ日本銀行は無論政府の掣肘を受けるようなことはないでしょうが、其他の銀行はなつて居らない、政府の時々の都合で人形の首をすげ換えるように、頭取を変えて見たり、総裁を変えて見たりすると云うような訳で、そう云う機関の銀行が完全に銀行の機能を發揮することの出来ないのは言わずして明である。

其他色々政府の事件に関係する銀行、会社等私が東京へ来て勤めて居ります東京電燈株式会社、或は瓦斯会社、或は各種の水力会社と云うような何等か政府の特殊な許可とか、政府の認可を受けなければならぬと云うような会社は、大概多少なり共政治的關係を以て交錯して居るのでありますから生一本に実業の本質たるビジネスライクに仕事をすると云うような、面倒臭い、手ぬるい事はお嫌いと見えて真面目でない、そして、一面そう云う都会に住んで居る所謂東京市民は、大体どう云うものであるかと云えば、実は茲にお集りのお方のように皆親から金を貰つて唯々遊んで暮して居る。否勉強して居るのですが、そう云う消費的大都会であつて、御承知の通り華族様を初め第一政府、それは一年に二十何億の歳出入を取扱ふ消費の親玉である。或は休職の軍人や官吏やに、皆金を使う人ばかりが東京に集つて来て居る。是は貴方達御自身がお考になつて

も、田舎で御両親がお働きになつて皆さんは金を貰つて唯勉強して居る。

斯う云う工合に東京は総て消費の都会であつて、全体何処の町に行つて見ても、麻布、小石川、四谷、新宿と云うように即ち皆消費する人の為に与える品物のある所で、生産的に活動して居ると云う所は本所、深川の一部分である。斯う云う都会でどう云う人が威張つて居るかと言つと、私共露骨に申しますと、どうしてあの人は食つて居るのであると云うような人が自動車に乗つて威張つて居る。尤も選挙が一遍あると代議士になり、其次には大臣になると云うような人が沢山居つて、どうも東京と云う所は私共、小僧からコツコツ仕事をして上つて来た者の眼から見ると、如何にも大ざつぱで、どうして是でやつて行けるだろうかと云うことを第一に感ずる。

其点に行くとは大阪はどうであるかと云うと皆働いて居る。極く簡単に、大阪の一番分り易い例を一事申上げると、大阪へ各所から皆雇われて来て、或は会社の重役になるとか色々なことを大阪でする為に出て来る。出て来るが是が一朝大阪で仕事を失うと、そこに留つて居る人は一人もない。皆東京に帰つて来る。何故大阪に留つて居られないか、或る会社の専務取締役であるとか、或は社長であるとか云う人は、大阪で仕事を失うと皆東京に来る。大阪には健全に働いて居る人より外居られない。何故居られない

かと云うと、浪人して居ったんでは肩身が狭くて居られない。東京は其反対に働いて居る人は肩身が狭くて、浪人程威張つて居る。是だけ違ふ。即ち大阪ではどうしても働いて真面目にコツコツやつて行くより外仕方がない。東京のように、議論づくめで仕事をして行こうと色々の計画を立てて政府の当局者を動かすとか、或は利権を漁るとか云うようなことは、是は東京一流の仕事であつて大阪には無い。

そこで私は貴方々は東京で仕事をなさるか、大阪でなさるか、どっちの方を選んでお進みになるか、東京で初めから仕事をするには又斯う云う遣り口があると云うことも、実は私も知らぬではない——が、併し此遣り口は何だか皆さんに若い時から邪道を勧める——逆手を打つと云うことをお勧めするような気がしますから、東京のお話は貴方々が特に東京に止つて居たいと云う人は又特別の機会にお話することにして、大阪の方に行くとするう御利益があると云うことを、手前味噌を申上げたいと思います。

大阪で働くにはどうしたら宜いかと斯う云いますと、私は能く会社の若い連中などに、寄ると触ると何時でも斯う云う話をするのですか、それは平凡主義、私は平凡主義でなければ是からの世の中はやつて行けるものではないと、此平凡主義を努めて強調して居るのであります。私の会社に這入つて来る連中は、又小林の平凡主義かと殆んど取合<sup>は</sup>われない位に平凡主義を鼓吹して居るのでありますが、何故

大阪は——今日は大阪ばかりでなしに全国そうでございます。又教育も御承知の如く平凡教育で天才教育ではない。又事実今日の世は、いざ鎌倉と云う時に応じて、君の御馬前で討死すれば宜い。普段はブラリブラリ遊んで居つても赤垣源藏のように、いざ鎌倉と云う時に山鹿流の陣太鼓に身を捨てて働いて行けば宜いというような簡単な訳には行かない。どうしても平凡主義で、毎日平凡に平凡にと暮す間に、一頭地を抜くと云うことの外に、名案はないと信じて居りますから、甚だ貴方々には何だか子供だましのようにお考かも知れませぬが、私の平凡主義を勧めたいと思つて居ります。

何故大阪で平凡主義でなければいかぬ、かと云うことは御承知の通り大阪は民衆の大都会で、神戸、大阪の人口を彼は寄せ集めましたならば、二百五十万人の大都会であります。華族さんと云う人は三人か四人位しか居らないでしょう。殆んど華族と云う者は問題にならない位の数で、役人も師団長か知事さんが一番上で、外の人は誰も居らない。総てのリーダーは実業に興つて、コツコツ仕上げた人である。此処で一寸、少し御参考迄に民衆の大阪、実業の都会である大阪に於て、私の採つて来た方針のことを申上げ度と思ひます。決して手前味噌を並べると云う意味ではありません。それは、私が電気鉄道会社を経営して居ります関係から、事業としての電気鉄道の経営と云うことは、

将来は一般乗客の為に利益の大部分を犠牲に供すべきものである。独占事業であるから株主だけがウマイ事をすればよいと言ふような事は間違つて居る。公共事業の性質として利益は断じてむさぼるものではない、という方針を立てて、これから先は民衆相手の仕事を商売とすることが一番安全だと考えましたから、梅田の停車場、阪急のターミナルは非常に優秀の位置を占めて居るので、昨今は毎日十二三万人の人数が乗り降り致して居りますが、一年に毎日平均二万乃至三万人宛殖えて行く傾向を有つて居ります。

そこでどうも電気鉄道と云ふものは、そう大して金を儲けると云うことを考へるのは間違つて居る、殖えれば殖えただけ一般公民の為に設備を良くし、ベストを尽さなければならぬものであるから、毎日出入する此公衆に便利を与えて、そしてウマイ商売をして見たい、双方共に利益があることをして見たいと、そこで私は三越白木屋と云うような、老舗のデパートメントが何故有望であるか、是は経営も宜しきを得て居りましょうし、信用も得て居りましょうし、又地の利も得て居りましょうが、要するに三越が日に十万人のお客を集め得る、と云う老舗——此のシニセが一番力があるのである、新設の会社のむさかしいのは此人を集めるシニセがないからである。老舗と云うものが中々むさかしいものであるのに、私共の立場に於て日に十二、三万人の人が乗り降りするターミナルを有つて居る。

此老舗を只で遊ばして置くのは如何にも勿体ないと思ひまして、私は十年前から茲でデパートメントを一つ経営して見たい、乗り降りの簡単な所で御便宜を与えることが出来る。自他共に便宜があると思ひまして、十年間色々のことやつて居りまして、大体目鼻が付きましたので、今建築中であります、是は全体は千坪の八階建、地階が二階則ち十階ですが、三期に分つて仕事をしつあります。只今は其三分の一を建てつつあるので、今年の十二月に落成して来年の四月には開店する。今日迄彼は十年間見本のような、小さいデパートメントをやつて居りましたが、いよいよ是から大きくやろうと云う計画であります。

斯う云うように民衆を相手の仕事に私は非常に興味を有つて居りますが、此民衆の仕事となると、実は私の本職とする得意な仕事の外にある、若し諸君が許さるるならば、民衆芸術論と云うような方面のお話を聞いて頂き度いのであります、即ち私の大劇場論であります、そんなことを茲で云うと塾長に叱られますから、今日は脱線しませぬ。併し私はそう云う民衆の商売に非常に興味を有つて居る点に於て、民衆芸術論の旗印を押し立てて大劇場論を掲げて、東京で近い将来に於てやつて見たいと、斯う思つて居るのであります、そう云うように民衆の相手の仕事を研究すればするほど、これからの世の中は平凡主義でなければならぬ、又多年色々やつて来た方面からも其一例として

お話しすれば、私の会社に這入る人は工学士であらうと法学士であらうと、電気の学問を専門にやって来た人でも、一遍は必ず車掌運転手をさせられるのであります。

始めは非常に気の毒に思いましたが、又実際お気の毒な状態ではありますが、今日やって来た人の経験なり感想なりは、まあ一年志願に行つて来た積りで洵に結構ですと云つて居りますが、是もどうしてそう云うことを志したかと云いますと大正五、六年頃でありましたが、よく屢々（しばしば）そう云う例は皆さんもぶつかるとしようか、電車が停電する、車掌運転手が何か故障はないかと思つて何処がどうこうと車の下に首を突込んで色々直して居る時に、同じ会社の社員が——私共の会社では社員が皆会社のマークを付けて居る、其社員が車の中で知らん顔をして新聞を見て居るのは余りに馬鹿氣きつた同情のない話で「どうしたのだ、手伝つてやろうか」とお互に、それは斯うしたら宜いと云つて仕事をする位、何も面倒なことはない。車掌運転手の仕事位はお互が知らなければならぬじゃないか、菓子屋の息子に生れば此菓子は一ツ幾らであるという位なことは若旦那でも知つて居るのが当然である。況んや同じ電鉄会社に勤務して居る社員が、俺は車掌運転手でないから運転のことは何にも知らないと言うのは水臭い、同じ家に居つて同じ釜の飯を食べながら、それは余りに他人行儀である、一つ皆がやろうじゃないかと云うことで、其時学生の若い人

が居りまして、やりましようやりましようと言ふ訳で皆一応は車掌なり運転手をする事になりました。

其結果は非常に好良でありまして、大正九年十年頃から世界戦争の反動で、労働問題がやかましくなつて来た時に、私共の会社には労働問題のろの字もありません。車掌運転手がストライキを起して何か要求しようと言ふ気配もない。ない筈です。何時も机を並べて居る人が数百人、何時でも電車を動かすことの出来る人であります。そう云う工合に出来上つて居るので何も私共はストライキを防ぐ予備の為にやったのではない。全くお互同じ商売をする以上は其位の心掛でなければならぬと云うのでやった所が、各電鉄会社にストライキが突発した時にも、私共の会社だけが何等の影響も受けない。其結果として今日の電気鉄道会社でも、新しく這入つて来る人は、一応車掌運転手をやらせようと思つてやるけれども、今度はストライキの予防の為にやらせようと云うのであるから、其精神ではどうしても普通の車掌運転手と反が合ないように聞いている。そう云う工合に私は此民衆相手の仕事をするには自らが平凡な民衆の一員となつて働かなければならぬと云うことが阪神急行のモットーであります。

各銀行に参りまして各会社に参りまして、是から皆さんがお這入りになつてどうしたならば出世するか、どうしたならば好く進んで行くか、と云う点も又此平凡主義に

依らなければならぬのではないかと思ひます、と云うのは先ず一例を申し上げますと、朝は早く普通八時の出勤々務でありましたならば七時半に会社に必ず行くと云うことを守るのが一番名案である。何でもないうでありませんが、此三十分早く行くと云うことは中々出来るものでない。八時の勤務ならば八時五分前に行けば宜いと云う人ばかり世の中に多い。八時の勤務ならば八時前にさえゆけばよいと考えている連中が多いのであります。

私が考えますに朝新聞を見る、新聞を見るのに自分の銀行なり会社なりの机の上で見る、三十分早く来て時には電車の停電或は何かの故障もある、偶にしかそう云うことはないでしょうが三十分早く毎日会社に出て来て居ると云うことを御実行になる、そうして営業時間前に新聞をすつかりそこで読むと云うだけの御注意を十年御勤続になつたらば、其人は必ず成功します。是だけは私の平凡主義の中の一番平凡なことで、御実行になれば必ず成功することを私は保証します。何でもないことですが之をやり得る人は殆んど絶無です。

そこで斯う云う話を一つ实例として人の名前を申して悪いかも知れませぬがお話しますれば三井物産会社の最近迄の重役であつた益田孝男爵と云う立派なお方がありますが、此お方に使われた人で、私が非常に御厄介になつて晩年には非常な御不幸な運命に立ち至つた岩下清周と云う人

があります。此人は三井物産会社に小僧から奉公した人でありますが、此人の直話によりますと、一番先に益田さんに見出された理由と云うものはどう云う所にあつたかと云うと、毎朝早く会社に出勤して新聞を見て居つた。そうすると重役が——此重役は毎日早く出ないが時々偶然に早く来ることもある。だし抜けに早くやつて来る。何か電報を打とうと思つて誰か居るか云うと、其岩下さんが居る。「君斯う云う電報を何処々に打つて呉れ」そこに居るから自分は電報を打つ役目ではないが「はい宜しうございませう」と云つて打つて来る。

其次に又、一カ月二カ月たつと重役がこのこ早くやつて来て——ああ云う立派な商売に機敏なお方でありましたから能く早く来ることもある。そうして又電報を頼むようなことがある。「君は能く早く来ますね」「下宿屋に居つても何も用事もなく、会社の方がストロブもあつて家に居るより宜いと思ひます」そこに一言二言言葉を交して役に立つ男だと云うように思われて、自分はそれから益田さんに認められて、直ぐ重用されて仏蘭西の支店長になつたと云うことを承りましたが、何も皆さんにそう云う真似をしると云う意味ではありませぬが、併し真理は其辺にぶら付いて居ると斯う思ふのであります。

そうして先ず時間前に必ず早く出勤すると云う風に心掛けて会社へ出て見る。会社へ出て見た時に一番考えなくて

はならぬ一つの秘訣がある。それは銀行会社になしく這入つて見ると皆が馬鹿に見える。是は貴方々来年の四月になれば必ず実験するが、自分より上の人が皆馬鹿に見える。馬鹿に見えるのが有望な点であつて若し万一、皆んな上の人が伶俐に、エラク見えたならば諸君は浮ぶ瀬がない。自分より偉い人ばかりだと思つたならば明日にも死ななければならぬようなことになりますから、皆馬鹿に見えるのがそれは当り前である。馬鹿に見えるのも、それは何と言いますか、急にあなたの方のように毎日試験をするでもなければ、宿題が出てあれが俺よりも能く英語を話すなあと云うことも分らない。実に平凡な算盤を弾いたり帳面をつけたらばかりして居るのであつて、自分の方が学校から出たてであつて何も彼も新進の知識を得て居るので皆馬鹿に見える。是は實際の話であります。其馬鹿に見える時にどうしたら宜いかと云うことが一つであります。

所が色々なことは馬鹿に見えるが下らないことが諸君には分らない。是は又實際分らない。まあ手紙の書方でも簡単なものであるが一寸したことが、斯う斯う云つた為替の仕切が来て居るから、斯うやつて斯う断つて呉れと云うとどう書いたら宜いかウロウロする位で、此時に学生に共通の欠点が現われてくる。それは、何も聞かない、聞くも業腹が立つと云うような片意地の点がそれである。此誰にも聞かない、聞くのをいやがるのが一番いけないと思う。世

の中の仕事と云うものは難しいことは一つもないので、聞けば一番簡単なことを一人で考へて居ると方程式を自分で考へるような馬鹿をする。コツコツと数字を考へるのは馬鹿である。定つた方式があればどうしたら宜いかと聞くに越したことはない。却つて実業界のことは初めの中は皆決つたことで何でもないのであるから、聞くのが一番宜い。所が其聞くのが嫌いで一人で年中へマをして居る。何故ならば上の奴が馬鹿に見えて居る者にこんなことを聞くのは業腹が立つ、是は学生の通有の欠点であらうと考へます。

それで私は学校出の青年にはいつも話してやる。聞くは一時の恥、知らぬは一生の損、と昔から言う通りであるから、何んでも遠慮なく聞くに限ると教えてやる。私も昨日偶然ベースボールを見た。慶應と法政のベースボールを見に行つて向うを見て居ると、どうしてストライクが三つでボールは四つかと云うことの理由が分らない。スリーストライク、フォアボール、こんなことを考へても馬鹿らしいと思つて傍の人に聞きました。ストライクが四つになつてもいかず、ボールが五つになつてもいかず、多くてもいかなければ、少なくともいけない、此処が難しい所なんであると云うことを聞きまして、其理由をきいて矢張聞くに越したことはないと思ひました。独りで研究するのも無論必要であるが、凡て実世界の事務は簡単にして平凡なものであるから、只だ愉快に平凡を楽むというより外に途はな

い。平凡であるから波乱がない、単調であるから興味がない、所謂十年一日の如くコツコツ働かなければならない。俺は偉いから、いざ鎌倉と云う時に役に立って君の御馬前に死ぬ勇気があるから平生はどうでもよいと云うことは禁物である、何でもコツコツ平凡にやるに限る。

そこで平凡の中にも少し注意していると利益になる事があるという一寸面白い話を先達つて聞いたから私はお笑いに申上げますが、世の中が斯う云う風になつて来て大変世智辛いか何とか云うけれども、其平凡の中に中々取柄のあると云う話を、先達て私の先輩である、第一生命保険を経営して居る矢野先生から聞きましたが、あなた方は遠の昔に御存知かも知れませぬが、私は始めて聞いて驚きました。東京には、落語家や講談師と同じように漫談家と云う商売があるそうです。漫談家と云うのは今日の新聞記事を今朝ずつと、見て来て其晩余興にする芸人だそうです。

一席或る宴会で其漫談家の話をききますと、其人たるや妙な洋服を着て髭を生やして風采頗る上らない男ですが、それが清元或は長唄と云うような立派な芸術の間に立つて口を開いて曰く、私は落語家にあらず、講釈師にあらず漫談家なりと、何を言うかと云うと、注意をして毎日新聞を見て居るとイクラでも飯を食う種はころがつている、此の世の中のことは何でも面白い種がザラに転つて居る、八月頃のことでしたが丁度斯う云う風に雨が降つて居る

「今年の夏は斯う雨が降つて居つて涼しくつて氣候が不順ではどうもやり切れないじゃないか」と云うと、「そう云うことを言うもんじゃない、お前それ位のことには辛抱しなくてはならない」「何故」「何故かつて考えてごらん、避暑に行つて居る人だつてあるじゃないか」こんな話をする。是は其日の朝日新聞にあつた、或る家のおかみさんが「なんて家の子は寝相が悪いんでしょう、彼方に転がつたり、此方に転がつたり年中寝返りばかり打つて居る」そうすると其亭主が「放つとけ放つとけ、今に政治家にしたら宜くなる」そう云うような時事問題を、何でもない新聞を注意して平凡な生活をして居つても飯が食えると云うような私は話を聞きました、流石に東京は広い処だ、それだけ注意さえすれば飯が食える。是等も余りに偉いことを考えたり難しいことを考えなくつても私の所謂平凡主義の努力の結果と考えて居ります。

もう一つあなた方に世の中へ出て御注意を申上げたいのは、是は極く秘密なんですが、議論をしてはいけない。議論と云うものの根本の目的は何処にあるかと云うならば実行にあり、実行する時に初めて議論の値打があつて、若し実行の伴わない議論ならば三文の値打もない空論である。併し兎角学生は議論をしたがる。此処は余程難しい呼吸でありまして、よく世の中に、吾々の先輩にも、吾々の同僚にもそう云う人が沢山ある。中々筋道の立つたことを言

う、言うことは中々正々堂々俯仰天地に愧じないようなことを言う。併し存外吳下の阿蒙で出世しないで年中不平を言つて居る。風采も良ければ人格も良い、言うことも筋道が立って居る、そう云う人間でありながらどうしても世の中に容れられない人が沢山ある。

其人の欠点は何処にあるかと云うと議論倒れ、先ず自分の説を感心させ度い、聞かせてやろうと云う考が何時でも先に立って付て廻る、それが其人の欠点である。又此人と反対に成功する人の中に能く上役の所へ行つて猫撫声をしてヘイヘイ言つて居る。あんな卑屈なことは嫌いだ。彼奴を見て居ると虫酸が湧くと云うように厭がられるに拘らず其人がずんずん出世して行く。実は此人は上役に諂いを言うでも何でもない。それは實際吾々の知つて居る範圍に於て其人の立場はどう云うことをして居るかと云うと、自分の説を、議論は実行にあるんだから、行わしめれば宜い、行わせると云うことが一番の目的だから、先ず社長なり、重役なり、上官の前に行つて「時に斯う斯う云う説がありますが是はどうしたら宜いものでしょう」「それは斯う云う風にするが宜い」「そうですか、どうも有難う、何故世の中ではそうして居ないのでしょう」「それはやらぬ奴が悪い」と云う風に自分の説と言わずして上役の説にして自分が実行する。

福澤先生の縁の下の力持は必要であるという教えに一致

する。是が一番成功の秘訣だと考える。自分の説を自分の説として実行せしめないで、結局実行せしめれば宜い。実行せしむる所に其人の腕がある。決してお諂いをするでもなければ何でもない、又其家の台所へ這入つて行つて奥さんの機嫌を取るのでも何でも無い。実行せしめれば宜い、自分の考えていることを議論するよりも唯上の人をして実行せしむる。是が世の中に立って一番成功する方法だろうと考える。是は何と申しますか、縁の下の力持の一種であろうと斯う思います。

最後に私は、此処で私の先輩の金言であるとして、私共が絶えず教わつて居つたことを、之を只で差上げるのは大変惜しいございますけれども、塾の御若い連中ですから、私は只で進呈する。それは『九つ譲れ一つ頑張れ』と云うことが一つ、まあ色々世の中に出て上役と意見の違いもあるうし、又友達間で交渉もありましようが、要するにそう云うどつちでも宜いことは頑張らない。此どつちでも宜いことはどつちでも宜いから大概のことは譲つて行く。併し年中譲つて居つたんでは人間の心の底を見られるから九つ譲つても必要な時には一つ頑張れ、是は吾々非常に宜いことだと思つてそれを服膺して居る次第であります。

もう一つは『盛んな時には行くな』例えば時の大臣其大臣の時に رفتつたつて五月蠅がられて、宜い加減に「何しに來やがった、又御諂いか」などと言われるから人の盛んな

時には行くな、人の落日には絶えず行けと是は絶えず吾々が年を取って既往を顧ると、是は社交にも何にも必要であつて、是はあなた方には少し早過ぎる位であります、盛んな時には行くな、落日にはよく行けと云うことが一つ、それから学生に必要なことは『親しむべし馴れるべからず』と、是が一つ、先輩なり友人の家へ行くと、まあ卒業した当時は殊にそうですが、まあ御目出度い、蒲団を敷け、是も食べると云うような訳で殆ど家族のように歓待する。色々先輩の家へ行つても、或は同窓者の同僚の間に行つても色々そう云うようなことで盛んに歓迎されますが、併し世の中のこととは余程難しいものであつて、其処で何も胡坐をかけた言つたからとて急に胡坐をかくにも及ばない。又さればさて痺れの切れて居るのに坐つて居る必要もないが、余程馴れて親しい者が出来ましたからとて馴れてはいけない。そうして殊に学生が世の中に出て一番失敗する点は「斯うせい、ああせい」と言われると直ぐ凶に乗つて馴れ切つてしまふと云うのは非常に注意すべきことであると思ひます。

もう一つは『人の前では力めて敬語を使え、二人の中では言い度いことを言え』そうして同僚間なり、斯うやつて茲に何百人の人が居りますが、学校を出て皆が一遍に支配人になるんでもない、重役になるんでもない。此中であるのは極く僅かの人であつて、後は大概平凡に終つてしま

う。そう云う時によく一緒になると君僕失敬で何でもやりたがるものであります、そう云う友達同志の間にも自ら有つて居る資格もあるのですから、人様の前では資格相応な尊敬と敬語を以て始終挨拶をしなければならぬ、二人きりになつたら何を言つても構わぬ、極く親しい間は何を言つても構わぬ、然るに人の前で以て君僕失敬でやつて二人きりになるとペコペコするのがある。是は注意すべきことで、矢張大勢の中では何時でも其人に対する敬語を忘れてはならぬ。其の人に対しては其人相応の尊敬と敬語を以て取扱つて、そうして二人きりになれば君僕失敬で何を言つても宜い。

是が吾々が今日迄世の中にやつて来て居る先輩から教わつた四つの秘訣でありまして、之をやれば必ずしも偉くなると云う訳でもないが、斯う云うのも一説であると御承知を願ひたいのであります。余り長くなりますと却つて御迷惑を掛けますから是で失礼を致します。

(九月二十四日本塾大学最上学生年学生に対する講演要旨)  
【一九二八(昭和三)年十一月号(三七五号)掲載】

(小林は実業家、阪急東宝グループの創始者として著名。電鉄中心の多角経営という、私鉄経営の見本を示す。一九二一(大正十)年から昭和三十二年に没するまで、慶應義塾評議員を務めた。)